

# 日刊建設工業新聞 9月11日(水) 第19742号

記事 電話03-3433-7161 mail-ed@decn.co.jp 購読 電話03-3433-7152 mail-sa@decn.co.jp 広告 電話03-3433-7164 eigyo@decn.co.jp

発行所 日刊建設工業新聞社 〒105-0021 東京都港区東新橋2-2-10 電話03(3436)7151 <https://www.decn.co.jp/> ©日刊建設工業新聞社 2019

高含水有機汚泥

## 中性状態で高強度に

### テクニカ 次世代型固化剤開発

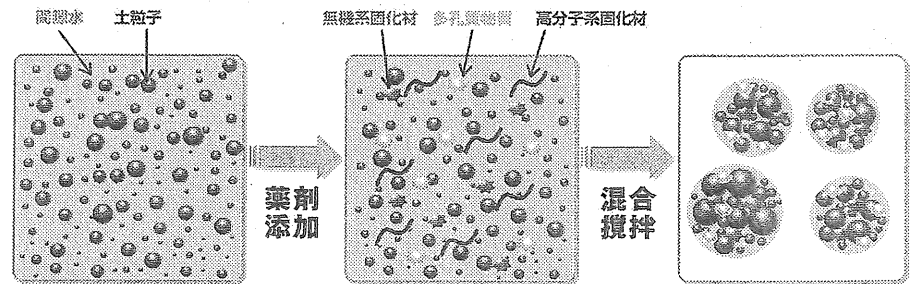
化学薬品メーカーのテクニカ合同(神戸市東灘区、寺尾好太社長)は、土木工事で発生する高含水有機汚泥などを中性の状態でも対応して、短時間で安全な造粒物に改質できる。環境循環型の次世代固化剤として積極的に売り出している。

汚泥や有機物を含む汚泥にも対応しており、短時間で安全な造粒物に改質できる。環境循環型の次世代固化剤として積極的に売り出している。

開発した「プラムロック」は有機系原料と無機系原料で構成する。土粒子と水分を凝集効果で造粒化する。造粒化したものから離水を促し、水分が無機系原料に吸着することで、強度を発現させる仕組みだ。

添加量の目安は対象土砂1平方メートルあたり10〜50キロ。汚泥などに同固化剤を添加して、バックホウやミキサー系混合機で攪拌(かくはん)して利用する。直後に第4種改良土に位置付けられている1平方メートルあたり200キログラムニュートン(N)以上の強度が発現される。7日後には第2種改良土である同800キログラムニュートン以上になるという。

従来の中性固化剤には弱アルカリ性製品が多く、添加量も多いた。改良後の最大強度も同400キログラムニュートンを目標とする製品が多かった。プラムロックは、中性域を保ちながら高強度で固化しているため、環境影響の抑制や安全性の面でもメリットが大きいという。1回の添加で改質が可能のため、作業効率も向上するとしている。



改質の流れ